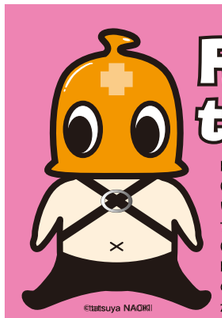


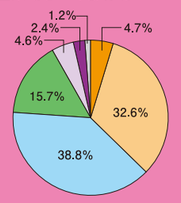
RESULT of the Check'n

PLuS+ FINALは大盛況のうちに幕を閉じ、来場者総数(推定)は6,320人でした！とてもたくさんのご来場、本当にありがとうございました。PLuS+では毎年『ちぇっくんアンケート』を実施しています。このアンケートによって来場者数を推定しているのですが、6,000人を超える来場者数となったのは過去最高の記録です。PLuS+ FINALアンケートには1,487人(有効回答数1,149人)の方の協力を得ることができました。この結果から「どんな人たちがPLuS+ FINALに来場したのか」についてご報告します。

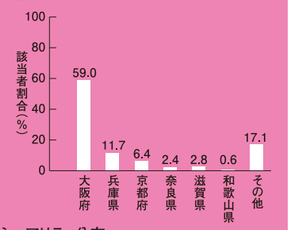
1.ちぇっくんアンケートからみる、PLuS+来場者について

アンケート回答者の平均年齢は、33歳(最高80歳／最少6歳)でした。
とりわけ20歳代、30歳代の人が多く、全体の7割を占めました。来場者の居住地域は大阪府と回答している人が最も多く59.0%で、兵庫県が11.7%、京都府6.4%でした。
アンケートに回答した人のうちゲイ・バイセクシュアルは全体の65.5%で、レズビアン2.1%、トランスジェンダー1.5%、ヘテロセクシュアル13.4%でした。ゲイ・バイセクシュアルのイベントというよりも、様々なセクシュアリティの人が集まったイベントだったという事がわかります。(右図参照)
アンケートに回答した人のうち、近畿在住のゲイ・バイセクシュアル男性(MSM:Men who have sex with men)は550人でした。その中で、初めてPLuS+に参加した人(初来場)は、39.3%でした。2年続けて4割くらいの人が初めての来場だったんですね。

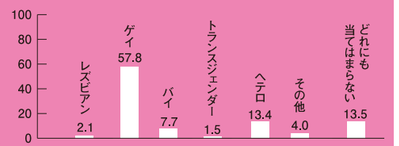
■来場者の年齢分布



■来場者の居住分布



■来場者のセクシュアリティ分布



2.まとめると…

実際の来場者は6,320人、またその内、ゲイ・バイセクシュアル男性(MSM)の推定は3,994人でした。PLuS+2009では、ゲイ・バイセクシュアル男性の推定は3,460人である事から、昨年より約500人多くゲイ・バイセクシュアル男性が来場されたと考えられます。
PLuS+は毎年参加者が増加しており、今回もコミュニティの協力によって、様々な人々が参加できたイベントとなっていることがわかりました。友達やステージ出演者のロコミやパンフレットによって、PLuS+に初めて参加していただいた人も多く、初めて参加した人にとっても楽しいイベントだったのではないかと思います。たくさんのご協力を本当にありがとうございました。

>>>TEACH

特別編 教えて、兄貴!! 第26回

気になるけど、誰に聞いたらいいのかわからない。知りたいけど、どうやって調べたらいいのかわからない。そんなみんなの疑問に、経験豊富な兄貴(時にはアネキ)が答えるコーナー。

PLuS+って、なんでFINALやったん？

**「PLuS+ FINAL for the next challenge」ってことで、本当に終わっちゃったPLuS+
なぜ、終わったの？そもそもPLuS+ってどういうお祭りだったの？　そこんとこ、(新旧の)実行委員長に聞いてみました。**

——PLuS+って、予算が無くなったから、やめるんですか？
時々、そんな声を聞きますが、予算が無くなったからという理由だけではないですよ！

——じゃあ、なぜやめるんですか？もうPLuS+っていらないの？
PLuS+のミッションは「HIV/エイズを僕たちの日常的なテーマにする」こと。「いつも」遊んだり、歩く公園に、「いつも」行くお店のブースがあり、「いつも」エイズ関連の活動を行っている団体のブースがあり、「いつも」の仲間がいて、「いつも」どおりに、HIV/エイズが話題になったりするという「祭り」を作ろう！としてスタートしました。「祭り」は地域とも結びついているでしょ？だからイベントじゃなくて、「祭り」。
この7年で、PLuS+は年々来場者数も増え、成長していったんですが、「イベントの成功＝ミッションの完遂」にはなっていない気がする。何かがズレている。それが何なのか、どこに力を入れるべきなのかを探るためにも、いったん休止することにしました。

——そっかぁ。　でもPLuS+って、エイズ・イベントとしては、いい感じやったと思うんですけど…
確かに、年齢、性別、職業、セクシュアリティ…といった社会環境がバラバラな人が集っていて、それぞれが、それぞれに居心地が良い「空間」というのは提供できていたと思う。そこに、これからのヒントがあるのかもしれません。でも、同じ居心地の良さでエイズについて語られたかっていうと、それは、まだまだかな。PLuS+のあの心地よい空間でも「エイズの話題は、まだ特別」という雰囲気が残っていたでしょ？

——うーん…。でもPLuS+を続けたことで、何かが変わったんじゃないですか？
7年前に比べて、僕たちの生活のなかでエイズが語られる機会は増えたと思う。「新しい彼氏、ポジやねん」「友達が感染してん」「検査行ったで」「薬が合わなくて…」とか、日々の生活の中で聞いたり、話したりすることあるでしょ？ただ、これはPLuS+が撒いた種が少しずつ発芽しつつあるのか、僕たちを取り巻く状況が急激に変化したためなのかは、まだわからないです。

——でも「for the next challenge」だから、何かはやるんですよね？
HIV/エイズを、さらに日常に落とし込むために、やらなきゃな！と思うことはたくさんあるんですが、限られたマンパワーとエネルギーをどこに集中させるのか考えて、選択していきたいですね。でも、next challengeは僕らのチャレンジだけでなく、みなさんのチャレンジのことでもあるんです。「何かしたい！」「こんなものが欲しい！」「こんなことしたい！」と思った人が、自分の力で動いてみる。そんなきっかけになったら良いなぁと思っています。

辻 宏幸
(旧実行委員長)

内田 優
(現実行委員長)

>>>LIFE

Positive Life vol.07

— 特別編 —

「+−=○(プラス マイナス イコール マル) in PLuS+ FINAL」

HIV/AIDSについての色々なtubuyaki(つぶやき)が書かれたTシャツやパネル。会場の広場やパビリオンの中で、ふとした瞬間に目にされた方も大勢いらっしゃったのではないでしょうか。
今回のポジライフでは、いつもの体験記はちょっとお休みしてPLuS+の会場で寄せられたつぶやきの一部と、+−=○(プラス マイナス イコール マル)の様子をちょっとだけご紹介します。

+−=○〜Tシャツに書かれたメッセージ〜

Q.恋愛とHIV/AIDSの関係について思う事をつぶやいてください
「もっと慎重に」「難しいけど乗り越えよう」「みんなちゃんと考えよ！」
Q.カミングアウトとHIV/AIDSの関係について
思う事をつぶやいてください
「ちゃんと検査することが大切っ」「知識と理解を」「自分を大切に！」
「あなたのとなりにも？」「『自分』を知ること」「みとめあうこと」
「一生懸命生きる。」「常に『自分』をしっかり持つ事！」　…etc

Q. 今年の+−=○はどんな感じでしたか？

「+−=○(プラマイ)」は、来場者も含めみんなが参加できるプロジェクトとして立ち上がり、今年で6回目の参加になりました。年々テントも大きくなり、今年はカフェ・ベガサスの一部として会場に存在したこと、またGOGOさんなども巻き込んだことで、PLuS+全体とともうまく馴染んでいたように感じました。プラマイは少しずつ他のイベントなど活動の範囲を広げています。これからは特別にHIVについて扱ったイベントにだけでなく、皆さんの身近な所にプラマイが普通にあるようになっていければと思います。

ホームページにも、PLuS+当日の模様がアップされる予定です。　http://equalpartner.web.fc2.com/

CAFE PEGASUS+

ライブメッセージ展や、大勢のドラァグクィーン達によるハプニングショウ、トークディスカッション等、盛りだくさんに行われました。

RADIO STATION

ラジオ・ステーション風のブースからは、様々なコミュニティの人のトークや、パフォーマンスショウ等が会場を沸かせました。

PANSY+CANDY BAR

クラフトワークショップや、トークを通じて、様々な立場の人がオープンに話をしながら楽しく交流していました。

P+COCK LOUNGE

エイズを巡る様々なシンポジウムやトークの合間に、フロアショウやアンダーウェアコレクション等が華やかに繰り広げられました。

HIV迅速検査会MaQ報告

PLuS+ FINALでは、HIV迅速検査会MaQも実施されました。
今回の検査会は、PLuS+ FINALの開催時間中に、メイン会場の扇町公園特設検査場で採血を行い、およそ1時間後に近くの検査結果お知らせ会場で検査結果をお伝えする(ただし、確認検査が必要となった方は、翌日に確認検査結果を受け取りに再度お越しいただく)というものでした。

今回の検査会は限られた時間の中での迅速検査実施のしていただける人数には限界があります。そこで、HIV感染の可能性の高い方に優先して受けていただくため、受検前のリスク確認を行ない、HIVに感染する機会がほとんどなかったと判断された方や定期的に検査を受けている方などには受検をご遠慮いただくという方式で行ないました。

受検した方214人のうち、リスク確認の結果、受検することになった方は172人でした。さらに172人の方は、途中で受検をキャンセルされたので、**最終的な受検者数は169人**でした。
169人の全ての方が検査結果を受け取りに来られました。その中で**3人の方がHIV陽性結果**でした。
3人の方は全て同性間の性的接触経験のある男性でした。

受検者のうち147人が同性間の性的接触経験のある男性でした。このうち6人がHIV陽性結果を受け取ったので、**同性間の性的接触経験のある男性の約25人に1人がHIV陽性結果**であったことになります。さらに、関西地域在住者に絞ってみた場合は、約20人に1人の割合になり、これまでの様々な調査結果と同じような割合でした。

陽性結果を受け取った6人の方々にはHIV専門医療機関や陽性とわかった方のためのサービスがあります。全ての方がすでに医療機関を受診されています。

PLuS+ FINAL決算

収入

01.	大阪市保健所事業委託費	2,310,000
02.	厚生労働省エイズ戦略研究費	9,440,612
03.	(財)エイズ予防財団　研究成果発表会	266,380
04.	(特)関西エイズ対策協議会	95,550
05.	広告協賛金	410,000
06.	出展協賛金・出展者実費負担金・寄付金など	752,642
◆収入合計◆		¥ 13,275,184

支出

01.	イベント企画会社制作費・運営事務費(会場機材リース費、電気工事費、音響照明オペレーション費、ごみ処理費、夜間警備等を含む)	8,370,000
02.	宣伝資材印刷費・制作委託費(パンフレット2万部、ポスター、アンケート用紙等)	1,439,215
03.	通信運搬費(関連団体・出店店舗等案内、広報費等)	107,079
04.	消耗品費(文具・会場設営装飾等)	370,010
05.	ステージ出演者交通費および諸経費(ステージ出演者交通費等)	886,380
06.	実行委員会経費(年間運営経費および委員交通費等)	324,400
07.	HIV迅速検査MaQ経費(会場借料費、スタッフ保険加入費、印刷費等)	710,552
08.	流入人口調査「ちぇっくん」経費(調査委託費、景品購入費)	1,000,000
19.	その他諸経費、雑費(レンタカー代、駐車場代記録撮影料等)	112,496
◇支出合計◇		¥ 13,320,132
	総合収支：	¥ -44,948

Community Space dista　来場者報告

PLuS+ FINAL 当日のdista来場者数・・・・・・・・・・・313名

Community Space distaでは、中国茶会 東方美男、petit blanc、特別企画展「HOW TO SEX」を開催致しました。沢山の方々のご来場、本当にありがとうございました。

その他、サテライトイベントの様子や感想は、dista.b(http://dista.be/)で近日公開予定です！

>>>TOPIC

知っとこ！ Sexual Health Information

セックスライフと健康をめぐるホットな情報

今回のテーマは

【シンポジウム】つけさえしたらエエ、のか？

〜市民として、様々な予防の可能性を探る〜

PLuS+　FINALも変たけなわ、日も傾き始めた頃にP+COCK LOUNGEにてシンポジウム「つけさえしたらエエ、のか？〜市民として、様々な予防の可能性を探る〜」が開かれました。
今回のシンポジウムは、「コンドームさえつければ問題は解決できる！」と考える医療関係者と、「セックスパートナーとの関係の中で日々予防の可能性を探っている」と考えるゲイが、立場を超えてエイズ予防の将来を語り合う場として企画されました。
PLuS+ではこれまでにも何度か学術的なシンポジウムを実施してきましたが、今回はその集大成として「エイズ予防の未来を考える」をテーマに、鬼塚哲郎(京都産業大学)、山田創平(京都精華大学)、三池義教(PRISM　VIDEO)、野原周作(ウリ専マネージャー)、藤田淳志(愛知学院大学)、木村博和(横浜市健康福祉局)、市川誠一(名古屋市立大学)の各氏が議論を展開しました。
エイズがゲイコミュニティにとって重要な健康問題となって30年近くが経ち、「予防することに疲れた」と耳にすることも増えてきました。コンドームを使うことは確かに重要ですが、使えないことだってあるかもしれない。そんな時、HIVの体内への侵入を少しでも減らす方法はないだろうか？

欧米の研究では、陽性の人が「自分の体内のＨＩＶの量」を測り、それが「少ない」時には「他者に感染させるリスクが少ない」と判断する方法や、陽性者と陰性者のカップルでは、「陽性者がウケを、陰性者がタチをすることでリスクを軽減できる」方法などが提案されています。これらはコンドームが使えない時にもリスクを軽減する方法として考えられたものですが、実際どれほど軽減できるのかという点に関しては、学術的には議論が分かれているのが現状です。
さらに確率の高い方法として、まずセックスパートナーがお互いに検査をして、その後数ヶ月間は全てのセックスにおいて予防をした上で再びお互いが検査を受け、「陰性」を確認して「コンドームを使わない」と判断する方法があります。しかしこの方法も「検査と検査の間の予防」が完璧であった保障はありませんし、またカップルは「たいてい相手に嘘をつく」との調査結果もあり、確実とはいえません。
シンポジウムが進むにしたがって「コンドーム以外の予防法」にも、それぞれに問題点があることがわかってきました。議論の中で明らかになったのは、コンドームに頼らない予防の試みは、お互いとのセックス以外のセックスを100%排除した関係があってこそ成り立つってこと。一方、セックスの相手を特定しない関係においては、コンドーム使用以外の予防法は逆にとってもメンドクサイ確認事項が増えてしまい、現実的な選択肢にはなりにくい(例えば「自分と相手の感染の有無を確かめ合う」とか「体内のＨＩＶの量を測るとか」……)。そこまでやるんだったら、結局コンドームのほうがはるかにお手軽で現実的だっていう議論になりました。今回の議論は今後も、何らかの形で続けていきたいと考えています。来場くださった皆さま、本当にありがとうございました！
(鬼塚哲郎/山田創平)

シンポジウムの様子はYOUTUBEで公開しています!!
「つけさえしたらエエのか？」で検索できます!!

「SaL+」は、MASH大阪が定期的に発行するコミュニティペーパーです。
SEX and LIFEの頭文字を取って、それに少し付け加えて「+」
健康なセックスライフに役に立つ情報や、街の情報を発信していければと思っています。お店やショップで見かけたら、ぜひ手に取ってみて下さいね !!

□編集後記□□□□□□□□□

母乳
気づけば今年もあと、ひと月ちょっとで終わりますね。今年は、あんまり病気もせずに送れたような気がします。年が明ける前に旅行でもイキタイナー。というか、旅行の前にそろそろ来年の夏に向けて、ジムを再開すべきか・・・？

シーハイ
「毎年PLuS+で会って無事を確認する」そういう友達が何人かいます。手を取り合って「久しぶりだねー」「何才になった？」と語り合う時間は言葉にならないほど素晴らしいものでした。今年のPLuS+でも彼らと会い、少し話をし、そしていつもの様に別れました。「また会おう！」と言って。

トク
誕生日を自分で祝うのが好きです。40代ですが、まだ祝っています。
が、今年は珍しく友人達が盛大に祝ってくれました。オトナになっての誕生会は、「今の自分の幸せは、自分を気にかけてくれている友人達のおかげなんだなぁ」と実感できて、本当に良いものでした。ありがとう！

SaL+編集部：戸田貴希　山田創平　後藤大輔

ご意見・ご要望などがありましたら、FAXまたはEメールにてMASH大阪事務局(↓)までお寄せください。

SaL+
MASHOSAKA
〒530-0027 大阪市北区堂山町17-5 巽ビル4階
[TEL/FAX] 06-6361-9300
office@mash-osaka.com

平成22年度厚生労働省エイズ対策研究事業「男性同性間におけるHIV感染とその介入効果に関する研究」